

西濃農林事務所の普及活動状況 令和4年5月31日現在

今月の重点活動

■水稲 「ほしじるし」高密度播種苗 実証ほの設置

5月に入り、管内各地域で水稲の移植作業が始まっている。

今年度は、JAにしみのTAC、JA全農岐阜、農薬メーカー、農林事務所が連携し、実需者ニーズの高い良食味多収性品種「ほしじるし」で高密度播種苗を利用した省力効果や、新規箱施薬剤の紋枯病等への防除効果を確認するため実証ほを管内延べ7か所で設置し、調査することとしている。

高密度播種苗移植では、作業に合わせ、草丈や葉齢等の苗調査と、苗のかき取り量や1株当たりの植付本数、10a当たりの使用箱数、作業時間などの調査を行った。

調査の結果、10a当たりの使用箱枚数は通常の苗を移植した場合と比較し3割程度削減され、併せて移植にかかる時間も短縮された。また、高密度播種苗の移植を行った生産者は、移植作業の省力化を実感していた。

農林事務所では、今後、月2回の生育調査を実施し、高密度播種苗の生育状況を確認するとともに、新規箱施薬剤の効果を確認するため、病虫害調査を実施していく。



【田植え作業の様子】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■就農希望者 第1回就農支援会議

5月12日(トマト)と5月19日(イチゴ)に、研修拠点施設にて、第1回就農支援会議が開催された。令和4年度はトマトで3名が、イチゴで1名が西濃地域での就農を目指し研修を行っており、国や県の就農支援制度の説明や研修生の就農準備スケジュールについて関係機関で情報共有を行った。

トマトおよびイチゴともに昨今の社会情勢の影響等により、資材価格が高騰しており、これまでよりも収益を確保することが厳しいと予想され、楽観視できない状況となっている。

引き続き、JA、市、農林事務所等関係機関が一丸となり、就農に向けて支援を行うことを確認した。



【就農支援会議の様子】

■ナシ 令和4年度第1回「大垣市梨塾」開催

5月11日、大垣市ナシ生産連絡協議会が、南若森のほ場で、令和4年度第1回大垣市梨塾を開催した。

大垣市梨塾は、ナシの担い手候補者(後継者候補者)の栽培技術向上の他、経営支援、販売支援を目的として実施しており、今年度で5年目となる。

当日、農林事務所からは、果樹栽培の基礎について説明した後、県農業経営課の西垣農業革新支援専門員から、摘果および新梢管理についての指導を受けた。

南若森での研修の後、曾根地域にある(株)DIBの根圏制御栽培のほ場を見学した。梨塾生は非常に熱心で、多くの質問が出され、情報交換もできた。次回は、6月にはほ場巡回を予定しており、塾生の技術向上に向け支援を行っていく。



【梨塾の様子】

安心して身近な「ぎふの食」づくり

■麦 県麦作共励会西濃地区審査を実施

5月16日、令和4年産小麦の出来ばえを評価する県麦作共励会西濃地区審査を実施し、大垣市、海津市、養老町から候補として挙げた3集団の、栽培技術、予想収量、品質等について、農林事務所とJAにしみのの審査員9名では場審査を行った。今年産小麦は、平年並の生育となっているが、5月以降赤かび病が発生し、品質低下が心配される状況である。審査をしたほ場では、少し雑草が残っている所もあったが、生育は良く、高収量が期待できる状況であった。審査の結果、養老町と海津市の2集団を西濃地区代表として県麦作共励会に推薦することとなった。

農林事務所では、今後実施される県審査に於いて、推薦した集団の栽培概要や経営状況等の説明を行うとともに、出品調書の作成などを支援することとしている。



■加工業務用タマネギ 関係機関との収穫前巡回

5月10日に、まもなく収穫開始となる加工業務用タマネギの生育状況について、関係機関と巡回し現状把握を行った。

分球対策としての若苗定植の試験区や、省力化のためのマルチなし栽培の試験区では、慣行栽培と比べ大きな差は見られなくなっていた。また、早生品種は前年より生育が進み、早いほ場では16日の週から随時収穫を開始することになった。JAにしみのTACより出荷規格についての説明も行われ、5月下旬から本格的に収穫が始まる見込みである。

農林事務所からは、生産者・品種により生育や病害虫の発生程度は様々であったことから、防除等の基本的な栽培管理の重要性について再度周知した。



【実証ほの現況確認】

■有機農業 有機農業営農モデル実証ほを設置

農林事務所では、有機農業推進に向けた営農モデル実証ほの設置について検討を重ね、今年度は神戸町の水菜で実証を行うことを決定した。生産者は、ぎふ清流GAPの第1号認証を受けた下宮青果部会協議会ごうど下宮GAP組織の会長であり、持続可能な農業への取り組み意識が高い。また、水菜は1作の栽培期間が最短30～最長70日と短期間であることから、有機栽培が可能でないかと期待している。

農林事務所では、5月6日に神戸集出荷センターで、課題と対策技術を提案し、JAにしみの、生産者と実証に向けた検討を行った。また、5月31日には、神戸町役場で神戸町、JA、実証生産者を招集した第1回有機農業プロジェクトチーム会議を開催し、有機農業の推進に関する合意形成を行った。



【実証ほの現況確認】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■花き 西濃花きメールマガジンの開始

花き生産者はJAとの関わりが少なく、生産者団体に所属していないと有益な情報が伝達されないという意見が多くあった。そこで、農林事務所から「西濃花きメールマガジン」の情報提供を提案したところ、ぜひとの要望があったため、取り組みを進めることとした。巡回及び郵送で案内を行い、5月20日にはテスト発信を行った。

メルマガでは、栽培技術、支援事業、イベント案内等をリアルタイムに発信することとし、今年度から開設された「清流の国ぎふ花と緑の振興センター」の講座案内も行う予定である。現在、登録者は14名であるが、巡回により加入を進め、迅速な情報提供による効果的な普及活動を行っていく。



【メルマガ送信の様子】